

中村滝雄

創作・研究活動選集

富山大学芸術文化学部教授 中村 滝雄

昭和62年国立高岡短期大学に赴任してから31年が経過し、今までで一番長い定職、定住になります。そして、高等教育機関において金属造形に関わる教育と研究の場を許されたこと、さらに制作することの我儘に支援してくれた多くの人に感謝を申し上げたいと思います。

○金属造形作家になる

私は文字よりも図象、脳よりも身体や手を使うのが得意であった。そんな青年が美術の基礎を身に付けていくに従い、色彩よりも立体の存在感や取り巻く空間に敏感になり、そして何より手で創造行為をすることに興味を抱き、自らを見つめる世界に身を置くようになる。15歳の頃には予想もしていなかった。

美術学部工芸科に進学し、鍛金による工芸をその技術と共に学んだ。彫鍛金の技術は金属の加工手段であり、経験を積みば目に見えて修得していけることや素材の不思議に出会える機会を与えてくれ、徐々に私を虜にした。技術を修得することは楽しくもあり、より高い技術が身に付けば誇らしく、次々と難しい技術にも挑戦するようになったことを記憶している。制作にとって必要不可欠であり、ハイレベルであればクオリティの高い作品が造れると考えていたからだ。しかし制作を進めて行くに従い、技術の先行は抽象的で先人の追従品しかできないことを私に認識させた。創造性の不在である。以後、「制作とは何か」を探究することが課題になったのである。

また、かつて私が美術を意識した十代後半、世の中は「もの派」の活動が活発であり、東京都美術館で行われた「読売アンデパンダン展」などにおいても目まぐるしく美の概念が変化していた。さらにそれ以前の「具体美術」を知り、「美とは一体何なのか」「創造とは何なのか」無知な私に突きつけられたのを思い出す。以後技術から発想しない作品制作を試みるようになった。つまり、私にとって過去に追従しない制作、あるいは抽象的と感じていた技術で語らせない造形力の獲得を目指した。紙や布、石膏、木製の角材、針金などの基礎的な学習で使用する材料によって、特殊で高度な技術を必要としない制

作を試みる挑戦となった。結果は案の定、解決できるような作品が制作できず、試行錯誤の日々が長く続き、制作活動を終える状況まで追い込まれたほどだ。造形作家の原点を問われた時間だった。しかし、このような状況が後に創造する感性の獲得をはじめ、表現することの思索、高い技術修得の必要性や重要性、素材の新たな魅力など改めて認識する機会を与えてくれたのも事実である。

そのような過程を辿る中、再び使い慣れていた金属である「鉄」に出会った。鉄は作者の行為でねじ伏せられる材料ではなく、ある意味で反抗的である。しかし、叩くというシンプルな行為で挑むと未知の表情が表出し、リアルな形態となって出現する素材だと判った。以来、叩く行為で鉄と対峙することによって獲得した驚き、素材に内在する不思議が作品制作にとっての材料から新たな造形素材として、コンセプトの対象に定めることを決断した。そして次々と表出する鉄の形態に思い入れを持つようになった。

その一作目は大宮野外彫刻展で発表した「RELEASE」(1985)(図2)である。シンプルな外力と溶接を駆使し、それまでにない制作過程を体験した。それまでの美術館で行われるコンペに出品していたモニュメンタルな形体(図1)に対し、この作品で鉄の新たな形態発見やこれまでの制作概念から解放された。さらにギャラリー山口(東京)で行った個展で画廊空間や建築要素、つまり場を意識して7つのパーツを配置した「RELEASE」(1987)(図3)、また一般の画廊とは異なった空間を有す秋山画廊(東京)で行った2回の個展(1997、2001)(図4、5)を経て、下山芸術の森発電所美術館(富山)の発電所跡という独特で屋内でありながら広大な空間(一辺15m立方体に近い)で行った「陰の領域」(2008)(図6)によって場所性と高比重の鉄の存在や形態などについて改めて意識し、常に「挑戦」と「徹底した探求」を念頭に、現在も鉄に対する解釈を深化させる思いである。

○鍛冶道具の調査研究

鋳物製品に関するシェアが全国で9割を超えている高岡は金属の街であり、多くの金属加工技術が職人の間で受け継がれている。その存在とレベルの高さに驚くと同時に、鍛冶を含む鍛金の技術がほとんどないのが高岡の印象であった。その理由の一つに、手間がかかる鍛金は量産に適応しない「低い経済性」が原因と問屋業界から指摘された。そのような状況のもと、鋳物産業を支えている鍛冶道具の生産が細々と残されていることに私は興味を抱いた。特に「手造りの鑪」を製作する現状に驚きが隠せなかった。一般に鑪は機械製造のものを購入する手道具であり、手作りのものがほとんどない。単純な一つの道具でも奥が深く、調査すればするほどその面白さに引き込まれたのを記憶している。更に製作者である岡崎喜久治氏の鑪への思い入れ、製作技術と金属材料の知識、氏の人間性などが興味深く感じられ、私の作品制作に影響が表れるほどであった。これを機に①鑪子（島谷 衆吉氏）、②種子鋏（牧瀬文義氏）、③博多鋏（高柳晴一氏）、④泊鉈（大久保千秋氏）の製作技術を中心に調査を進めて記録すると同時に、そこで得た職人気質や技術の継承方法など、ものづくり教育（学校教育）と比較しながら「教えるとは何か」「伝えることの重要性」を考えさせられた。これらは教育者として充実した研究となった。

①鑪子は読経の時に鳴され、その音に特徴がある。撥で端を打つ音がカン、中域の音の波がオツ、低音でゆっくりとした波がモンと呼ばれる。この3つの音のバランスが重要であり、心を鎮めて読経と同調させる調律方法が不思議で、私に興味を抱かせた。端の一部を内側から、時には外側から金錘で叩いて調音するのである。この行為を島谷氏は「音を呼ぶ」と言い表し、詩的で美しいと感激した。

②種子鋏は砂鉄が豊富に産出した種子島において刀鍛冶、鉄砲鍛冶がその技術によって製作してきた鋏であり、刃のついている穂が薄く、湾曲とねじれを有しているのが特徴的である。この研究は司馬遼太郎著『街道をゆく』の「種子島みち」が契機となった。刀鍛冶の家系に生まれた37代目牧瀬義文氏の寡黙に向き合う製作姿勢に歴史を感じた。

③博多鋏は種子鋏の比較対象として取り上げた。700年の歴史を持ち、刀鍛冶師が継承してきた。製作者である高柳晴一氏は高柳家の3代目であり、現在は唯一の職人である。座の擦り合わせ部に細心の注意を払い、相互の刃の噛み合わせがスムーズで抵抗が少ない鋏に仕上げる。その思い入れ様は金属造形を行う私に強く刺激を与えてくれた。

④泊鉈は富山県泊地区で製作され、その性能から全国の林業従事者の間に行き渡った鉈である。この鉈は野鍛冶

であり若くして独立した大久保中秋氏が経験則的に得た鍛冶技術によって製作した刃物であり、先端にあるトンビと言われる突起が刀身と一体化していることが多様な山仕事をこなす機能として発揮する。またこの調査をしていく過程において、職人が技術を伝える言葉として良く発していた「勘」の正体を知りたいと思った。

これらの調査では秘伝の多い鍛冶技術、寡黙で気難しいと思われがちな職人を相手にしたが、意外と気さくに何でも手の内を明かしてくれたことが成果に繋がった。

○卒業生の「かけら」

平成17年富山県内の国立3大学が統合し、国立高岡短期大学は国立大学法人富山大学芸術文化学部になった。前身の高岡短期大学においても多くの学科卒業生、専攻科修了生が鍛冶による金属工芸の分野を選択して卒業研究・制作を行い、私の中にも多くの作品と学生の軌跡が記憶されている。また、芸術文化学部の卒業研究・制作に金属彫刻と金属工芸（鍛冶）を選択した学生や金工室に深く関わった学生が今年度で32名になる。その学生たちに卒制の過程で試作したパーツや思いの籠った物体を「かけら」として私の手元に残してもらった。今年度で私が定年退職するにあたり、全員とはいかなかったがそれらを紹介したい。

これらの「かけら」は、特に4年次の1年間を費やす卒業制作と共に、あえて別の小品として意識せず、制作する上で決定したコンセプトやその表現方法などに至るまでの切掛けや思索の段階で生まれた物体、あるいはそのパーツや手法を駆使して制作された物体であり、小品として制作してくれた学生もいれば、物体としてまとめた者、使用しなかったパーツを加工した者もいる。

一辺10cmという空間内で2次元、3次元の物体として提出してもらった。卒制の作品もさることながら、私は制作プロセスを大切に位置づけている。これらの物体は制作過程の重要な要素を示しており、鮮明な形で1年間の記憶として残っているととても良い。つまり、私の研究室では決まった分野や金属、技法、制作パターンを決めているわけではなく、鋳造以外の技法を駆使する金属造形分野で制作させている。これまで新しいコンセプト、制作手段などで新たな挑戦をする学生や期待を超える世界に到達した学生もいた。この現象は学部の特徴である融合教育の成果であると考えている。私は、学生たちのアイディア段階で驚きが伴う感性としてそれらを歓迎し、学生と共に試行錯誤することもあった。時には多くの時間が必要になり、また未熟な技術力に学生が不安に感じたことがあったかもしれない。しかし、そのようなことが新しいものを創造する能力や目標に辿り着く方法、課題を考え抜く力を得たに違いないと思っている。

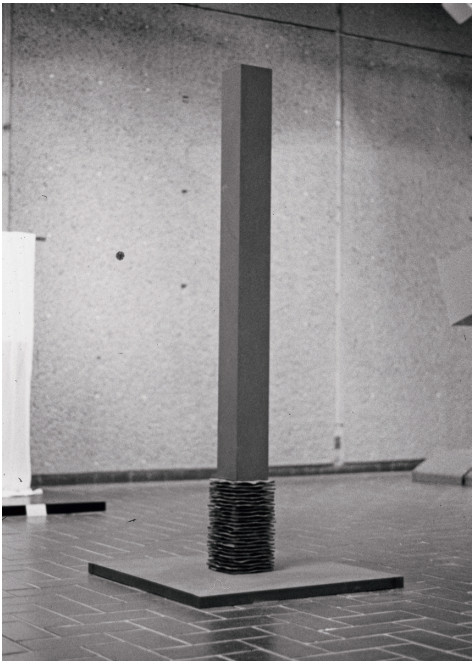


図1

タイトル(年) : REVIVE (1982)

発表場所 : 第14回日本国際美術展(東京都美術館、京都市美術館)

サイズ・素材 : H215×W120×D120 cm、鉄



図2

タイトル(年) : RELEASE (1985)

発表場所 : 第2回大宮野外彫刻展(大宮市民の森)

サイズ・素材 : H400×W500×D500 cm、鉄



図3

タイトル(年) : RELEASE (1987)

発表場所 : 中村滝雄展(ギャラリー山口)

サイズ・素材 : H230×W460×D780 cm、鉄



図4

タイトル(年) : 表出-WIRE WORK VI-(1997)

発表場所 : 中村滝雄展(秋山画廊、砺波市美術館、ギャラリーNOW)

サイズ・素材 : H240×W300×D900 cm、鉄



図 5

タイトル(年) : 表出ー水基のゆらぎー (2001)

発表場所 : 中村滝雄展 (秋山画廊、砺波市美術館)

サイズ・素材 : H40×W300×D900 cm、鉄



図6

タイトル(年) : 陰の領域(2008)

発表場所 : 中村滝雄展—鉄・知覚の陰翳—(下山芸術の森発電所美術館)

サイズ・素材 : H920×W1450×D1450 cm、鉄

1952 - 東京都に生まれる／富山県在住

1978 - 東京芸術大学大学院修了

- グループ 展 -

1976 - 第25回行動美術展 奨励賞（東京都美術館／東京）

- サロン・ド・プランタン賞（東京芸術大学）

1977 - 行動美術新人選抜展（紀伊国屋画廊／東京）

- 第26回行動美術展（東京都美術館／東京）

- 第11回現代日本美術選抜展（文化庁主催／全国巡回）

1978 - 第1回エンバ賞美術展 国立国際美術館賞（エンバ中国近代美術館／兵庫）

- 第27回行動美術展（東京都美術館／東京）

1979 - 第14回現代日本美術展（東京都美術館・京都市美術館／東京・京都）

- 第28回行動美術展（東京都美術館／東京）

- 第1回沌転歓展（西武工芸画廊／東京）

1980 - メタルスカルプチュア '80展（ギャラリー山口／東京）

- 第3回エンバ賞美術展（エンバ中国近代美術館／兵庫）

- メタル&アートワーク「歩」展（松屋アートギャラリー／東京）

- 第1回サンレオ工芸美術展（ぎやらりー和知／東京）

- 第2回沌転歓展（西武工芸画廊／東京）

1981 - 第4回日本金属造形作家展（銀座和光ホール／東京）

- 第15回現代日本美術展（東京都美術館・京都市美術館／東京・京都）

- 第4回エンバ賞美術展（エンバ中国近代美術館／兵庫）

- 第3回沌転歓展（西武工芸画廊／東京）

1982 - 第14回日本国際美術展 賞候補（東京都美術館・京都市美術館／東京・京都）

- 第5回エンバ賞美術展 賞候補（エンバ中国近代美術館／兵庫）

1983 - 第4回北関東美術展（栃木県立美術館／栃木）

- ギャラリー山口 '83展（ギャラリー山口／東京）

1985 - 第2回大宮野外彫刻展（大宮市民の森／埼玉）

- ≪建築に現代美術を≫展（ギャラリー山口／

東京）

- 第3回大宮野外彫刻展（大宮市民の森／埼玉）

- 西武工芸大賞展（有楽町西武／東京）

1988 - 第4回大宮野外彫刻展（大宮市民の森／埼玉）

- 日本金属美術作品展（北京・上海／中国）

1989 - 第5回現代彫刻イン穗高（ /長野）

1990 - '90富山の美術（富山近代美術館／富山）

- 第6回現代彫刻イン穗高（ /長野）

1991 - 第11回金沢彫刻展 優秀賞（金沢市図書館／石川）

- ≪風≫の造形展（すみだりバーサイドホールギャラリー／東京）

1993 - 拡大する鍛金—三井安蘇夫とその後継者たち—（栃木県立美術館／栃木）

- 挑展（庄川町立美術館／富山）

1995 - '95新鋭選抜北日本美術展（富山県民会館美術館／富山）

- 空間—沈黙の風景—（高岡市美術館／富山）

- 金属とやまの作家たち展（庄川町立美術館／富山）

- 庄川の縁展（庄川町立美術館／富山）

- '95金沢工芸大賞コンペティション（香林坊大和／石川）

1996 - '96となみ野美術展 北日本新聞社賞（砺波市美術館／富山）

- 現代に生きづく金工展（高岡市美術館／富山）

1997 - 翔展（黒部市美術館／富山）

1998 - '98日向現代彫刻展（日向グリーンパーク／宮崎）

- 富山県今日の彫刻展（小矢部市／富山）

1999 - '99宮崎現代彫刻・空港展（宮崎空港ビル／宮崎）

- 挑流展（庄川町立美術館／富山）

- 安達博文・中村滝雄・野田雄一展（DAY I CAN／富山）

2000 - 2000宮崎現代彫刻・空港展（宮崎空港ビル／宮崎）

2001 - 2001宮崎現代彫刻・空港展（宮崎空港ビル／宮崎）

2002 - 日本美術家連盟第1回富山県会員展（富山県民会館美術館／富山）

- '96となみ野美術展 北日本新聞社賞（砺波市美術館／富山）

- 2002宮崎現代彫刻・空港展（宮崎空港ビル／宮崎）

- 地域をつなぐ特別展—素材と造形—（高岡短期大学／富山）

- 2003 - トリエンナーレ2003年神通峡美術展 神通峡美術賞(猿倉山森林公園/富山)
 - 2003宮崎現代彫刻・空港展(宮崎空港ビル/宮崎)
 - ザ・オブジェ2003—饗宴するエネルギー(ギャラリーNOW/富山)
 - 日本美術家協会第1回富山県会員小品展(ギャラリーアーバンプレイス/富山)
- 2004 - 2004となみ野美術展 北日本新聞社賞(砺波市美術館/富山)
 - 日本美術家連盟第2回富山県会員展(新川文化ホール/富山)
- 2005 - 2005宮崎現代彫刻・空港展(宮崎空港ビル/宮崎)
 - Art Grove in COLARE(黒部市国際文化センター コラーレ/富山)
 - '05富山県今日の彫刻展(小矢部市総合会館/富山)
 - 富山大学芸術文化学部創設展—伝統と革新—(高岡市美術館/富山)
 - 第1回砺波市美術家協会展(砺波市美術館/富山)
- 2006 - 第1回日本美術家連盟会員展—福井・石川・富山・新潟—(富山県民会館美術館/富山)
 - 2006宮崎現代彫刻・空港展(宮崎空港ビル/宮崎)
 - 2006となみ野美術展(砺波市美術館/富山)
 - 工芸都市高岡クラフトコンペ20回記念展(高岡市美術館/富山)
 - 第2回砺波市美術家協会展(砺波市美術館/富山)
- 2007 - とやま現代作家シリーズ「時の中で」(富山県立近代美術館/富山)
 - 2007宮崎現代彫刻・空港展(宮崎空港ビル/宮崎)
 - 第3回砺波市美術家協会展(砺波市美術館/富山)
 - 日本美術家連盟 第2回富山県会員小品展(/富山)
- 2008 - 中村滝雄展「鉄・知覚の陰翳」(下山芸術の森 発電所美術館/富山)
 - 2008となみ野美術展(砺波市美術館/富山)
 - 第4回砺波市美術家協会展(砺波市美術館/富山)
- 2009 - 至高の精神展 総集編Part2(砺波市美術館/富山)
 - トリエンナーレ2009年 神通峡美術展(猿倉山森林公園/富山)
- 2009宮崎現代彫刻・空港展(宮崎空港ビル/宮崎)
 - 第5回砺波市美術家協会展(砺波市美術館/富山)
- 2010 - アートガーデン2010(黒部市国際文化センター コラーレ/富山)
 - 2010となみ野美術展 北日本新聞社賞(砺波市美術館/富山)
 - とやま現代作家シリーズ「メッセージ—アート新世代から—」(富山県立近代美術館/富山)
 - 中村滝雄展(北日本新聞砺波支社ギャラリー/富山)
 - 第6回砺波市美術家協会・トルコ友好美術展(砺波市美術館/富山)
 - GEIBUNオープンミュージアムin環水公園2010(富岩運河環水公園/富山)
- 2011 - 2011宮崎現代彫刻・空港展(宮崎空港ビル/宮崎)
 - 第3回日本美術家連盟会員展—石川・富山・福井—(金沢21世紀美術館/石川)
 - 第7回砺波市美術家協会展(砺波市美術館/富山)
- 2012 - 2012平和美術展(富山県民会館美術館/富山)
 - 2012宮崎現代彫刻・空港展(宮崎空港ビル/宮崎)
 - 2012となみ野美術展(砺波市美術館/富山)
 - アートガーデン2012大岩山(大岩山日石寺境内内/富山)
 - GEIBUNオープンミュージアムin環水公園2010(富岩運河環水公園/富山)
 - 第8回砺波市美術家協会展(砺波市美術館/富山)
- 2013 - 第4回日本美術家連盟会員展—富山・福井・石川—(富山県民会館美術館/富山)
 - 太閤山ビエンナーレ2013(太閤山ランド、ふるさとギャラリー/富山)
 - 日タイ現代美術展(パタナシン芸術大学との交流展)(ワングナーアーツギャラリー/タイ)
 - 第9回砺波市美術家協会展(砺波市美術館/富山)
- 2014 - 空間造形展アートフィールド2014(クロスランドおやべ/富山)
 - 2014宮崎現代彫刻・空港展(宮崎空港ビル

- ／宮崎)
- 2014となみ野美術展 (砺波市美術館／富山)
- つくったり、考えたりー美術教育からのメッセージー (東京芸術大学美術館／東京)
- GEIBUNオープンミュージアムin環水公園 2010 (富岩運河環水公園／富山)
- 第9回砺波市美術家協会展 (砺波市美術館／富山)
- 2015 - 下山芸術の森 発電所美術館 会館20周年記念展「GROWING」(下山芸術の森 発電所美術館／富山)
- 2015宮崎現代彫刻・空港展 (宮崎空港ビル／宮崎)
- 太閤山ビエンナーレ2015 (太閤山ランド、ふるさとギャラリー／富山)
- 2015アートハウスおやべ開館記念展 空間造形「新たな美との出会い」(アートハウスおやべ／富山)
- GEIBUNオープンミュージアムin環水公園 2010 (富岩運河環水公園／富山)
- 第10回砺波市美術家協会展 (砺波市美術館／富山)
- 2016 - 2016となみ野美術展 (砺波市美術館／富山)
- みなのおもてー東京芸術大学鍛金研究室で学ぶー (リクシルギャラリー／東京)
- 第11回砺波市美術家協会展 (砺波市美術館／富山)
- 2017 - 空間造形2017「美の時空を拓く」(アートハウスおやべ／富山)
- ビエンナーレTOYAMA 2017 (富山県美術館／富山)
- 第12回砺波市美術家協会展 (砺波市美術館／富山)

－ 個 展 －

- 1982 - 第1回 個展ーREVIVEー (ギャラリー山口／東京)
- 1987 - 第2回 個展ーREREASEー (ギャラリー山口／東京)
- 1992 - 第3回 個展ーREREASEー (ギャラリー山口／東京)
- 中村滝雄展ー表出ー (ギャラリーNOW／富山)
- 1997 - 中村滝雄展 (DAY・I・CAN／富山)
- 第4回 個展ー表出・WIRE WORKー (秋山

画廊／東京)

- 1999 - 中村滝雄展ー表出・WIRE WORKー (ギャラリーNOW／富山)
- 2001 - 第5回 個展ー表出 水基の6ゆらぎー (秋山画廊／東京)
- 2002 - 至高の精神展 中村滝雄「表出」(砺波市美術館／富山)
- 中村滝雄展 (ギャラリーNOW／富山)
- 2004 - 中村滝雄 小彫刻展 (第10回個展) (ギャラリー蔵／富山)
- 2008 - 中村滝雄展ー鉄・知覚の陰翳ー (下山芸術の森 発電所美術館／富山)
- 北日本新聞社マンスリーアートー中村滝雄展ー (北日本新聞ギャラリー／富山)
- 2009 - 中村滝雄展 (砺波総合病院おあしすギャラリー／富山)
- 2010 - 中村滝雄展 (北日本新聞砺波支社ギャラリー／富山)
- 2012 - 中村滝雄展 ー表出 鉄・CIRCLEー (E&Cギャラリー／福井)
- 2015 - 中村滝雄展 ー表出 鉄の形態ー (松村外次郎記念庄川美術館／富山)
- 2017 - 中村滝雄展 (砺波総合病院おあしすギャラリー／富山)

－ 所 属 －

日本美術家連盟
砺波市美術家協会

－ コレクション －

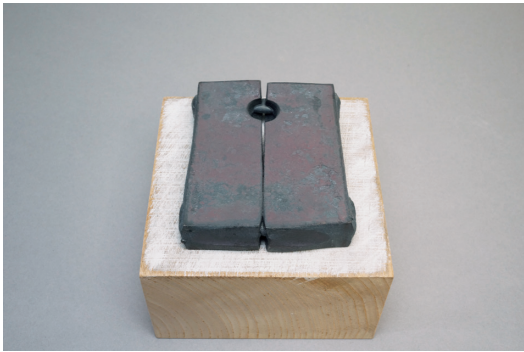
新潟県大和町庁舎、埼玉医科大学、国立国際美術館、砺波市美術館、下山芸術の森発電所美術館



1



2



3



4



5



6



7



8



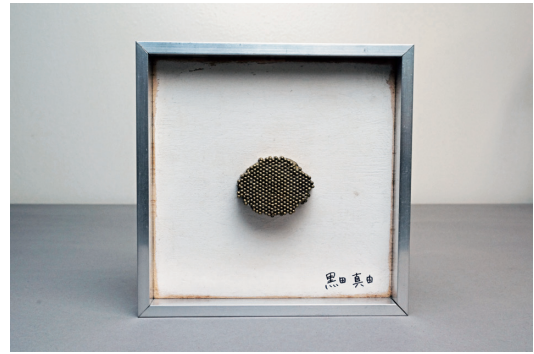
9

(材料 H×W×Dmm)

1. 1期生 松田小百合(アクリル、鉛 77×62×34)
2. 1期生 室谷美乃里(銅 90×108×104)
3. 1期生 秋田 和良(鉄 21×70×82)
4. 1期生 田中久美子(真鍮 110×110×21)
5. 1期生 白川 愛紗(銅、アクリル 110×114×27)
6. 2期生 宮崎 遼(鉄 22×101×101)
7. 2期生 是石菜美子(鉄、タイル 65×97×97)
8. 2期生 西 恵理華(銅 44×82×62)
9. 2期生 白藤里可子(銅、真鍮 217×84×43)



10



11



12



13



14



15



16



17

- 10. 2期修了生 志水ゆめか(銅、錫 17×102×103)
- 11. 3期生 黒田 真由(真鍮 110×110×21)
- 12. 3期生 則本 成貴(銅、銀 43×69×69)
- 13. 3期生 藤沢 瑤子(真鍮 18×77×59)
- 14. 4期生 山本 萌由(銅 17×117×45)
- 15. 4期生 守田 詠美(鉄 24×101×106)
- 16. 4期生 本多 智美(銅 40×93×93)
- 17. 5期生 一原 千帆(銅、漆 41×79×63)
- 18. 5期生 金森 和希(鉄 80×85×85)



18



19



20



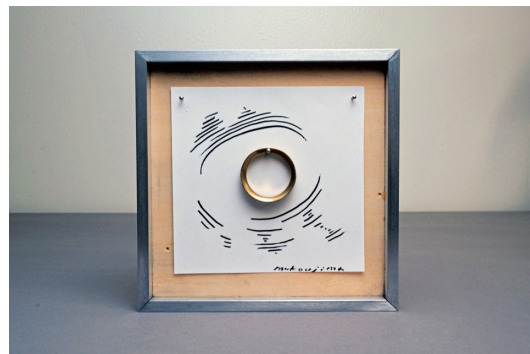
21



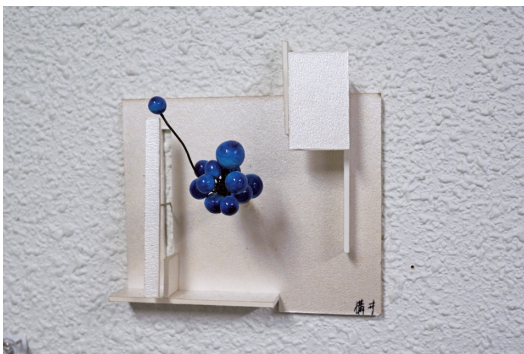
22



23



24



25



26



27

- 19. 5期生 小槻 有(銅、銀、四分一 32×60×60)
- 20. 5期生 林 悠貴(ステンレス 34×100×64)
- 21. 6期生 榎尾 菜央(ステンレス、木 141×140×84)
- 22. 6期生 吉田 百花(真鍮 12×112×37)
- 23. 6期生 池田 晴美(銅、銀、赤銅 51×48×48)
- 24. 7期生 向島 千尋(真鍮、紙 110×110×21)
- 25. 7期生 構井 綾香(ビーズ、紙、鉄 100×140×84)
- 26. 7期生 Otsuka Naoko(銅 85×100×100)
- 27. 8期生 竹田 愛(銅、アクリル絵具 72×75×77)

鍛冶道具の調査研究

	題目	執筆	掲載誌	刊行年
鑪 (岡崎鑪製作所) / 富山県				
資料	道具が作られる過程	中村滝雄、小松研治、小郷直言	高岡短期大学紀要 第6巻 p.127-137	平成 8年12月
資料	手打ち鑪の製法と背景についての調査	中村滝雄	高岡短期大学紀要 第7巻 p.133-147	平成 8年 3月
論文	鑪の目切りについて-目きり工程と鑪目の形態に関する考察	中村滝雄・横田勝・今淵純子	高岡短期大学紀要 第10巻 p.49-68	平成 9年10月
論文	手打ち鑪における熱処理について	中村滝雄・横田勝・今淵純子	高岡短期大学紀要 第13巻 p.1-14	平成11年 3月
論文	多様な被削材に適した鑪目の形態とその切削効果について	中村滝雄・横田勝・今淵純子	高岡短期大学紀要 第16巻 p.171-185	平成13年 7月
種子鋏 (牧瀬種子鋏製作所) / 鹿児島県				
論文	鹿児島県・種子島の製作に使用される道具とその形態について	中村滝雄、横田勝、今淵純子	高岡短期大学紀要 第19巻 p.171-182	平成16年 3月
論文	伝統的鍛冶技法による種子鋏の製作工程について	中村滝雄、横田勝、ペルトネン純子	富山大学 芸術文化学部紀要 第1巻 p.68-81	平成19年12月
資料	鹿児島県・種子島における種子鋏製造の伝統的技法に関する調査研究	横田勝、中村滝雄、ペルトネン純子	富山大学 芸術文化学部紀要 第1巻 p.160-165	平成19年12月
ノート	伝統的鍛冶技法による種子鋏製造の技術津保持者に対する聞き取り調査とそれに関わる周辺調査報告	ペルトネン純子、中村滝雄、横田勝	富山大学 芸術文化学部紀要 第1巻 p.138-143	平成19年12月
論文	伝統的鍛冶技術による種子鋏製作技術の調査と材料学的考察	中村滝雄、横田勝、ペルトネン純子、長柄毅一	富山大学 芸術文化学部紀要 第2巻 p.60-69	平成21年12月
報告書	平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))に採用 伝統的鍛冶製品、種子鋏の製作工程・技術および材料学的研究(課題番号:16500636)	中村滝雄、横田勝、ペルトネン純子		平成16年 4月
	科学技術研究費補助金研究成果報告書(p.138)	中村滝雄、横田勝、ペルトネン純子		平成18年 5月
	「西之表の種子鋏製作技術」が国の記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財(民俗技術)に選択			平成24年 3月
博多鋏 (高柳製作所) / 福岡県				
資料	付け鋼技法で製作される博多鋏の調査-作業場と道具-(査読付)	中村滝雄、横田勝、ペルトネン純子、長柄毅一	富山大学 芸術文化学部紀要 第2巻 p.112-121	平成21年 2月
論文	付け鋼技法による博多鋏の製作工程とその特徴についての考察(査読付)	中村滝雄、横田勝、ペルトネン純子、長柄毅一	富山大学 芸術文化学部紀要 第3巻 p.64-81	平成22年 2月
	「博多鋏製作技術」が国の記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財(民族技術)に選択			平成29年 3月
泊鉈 (大久保製作所) / 富山県				
ノート	北陸における鉈製作について(査読付)	中村滝雄、ペルトネン純子、長柄毅一、河原雅典	富山大学 芸術文化学部紀要 第4巻 p.146-153	平成23年 2月
ノート	泊鉈制作の作業場ならびに道具に関する調査	中村滝雄、ペルトネン純子、長柄毅一、河原雅典	富山大学 芸術文化学部紀要 第5巻 p.126-133	平成24年 2月
論文	泊鉈の製作工程ならびに経験則的鍛冶技術の調査	中村滝雄、ペルトネン純子、長柄毅一、河原雅典	富山大学 芸術文化学部紀要 第5巻 p.82-93	平成24年 2月
ノート	泊鉈の熱処理工程と金属組織	長柄毅一、中村滝雄、ペルトネン純子、河原雅典	富山大学 芸術文化学部紀要 第6巻 p.146-153	平成25年 2月
	泊鉈の人間工学的研究	中村滝雄、河原雅典、ペルトネン純子、長柄毅一	科学技術研究費補助金研究成果報告書 「経験則的鍛冶技術の調査ならびに人間工学的研究-泊鉈について-」	
報告書	平成20年度科学研究費補助金(基盤研究(C))に採用 経験則的鍛冶技術の調査ならびに人間工学的研究-泊鉈について-(課題番号:20500872)	中村滝雄・ペルトネン純子・長柄毅一・河原雅典		平成20年 4月
	科学技術研究費補助金研究成果報告書(p.135)	中村滝雄・ペルトネン純子・長柄毅一・河原雅典		平成23年 7月

